

Ubiquitous Surveying ~暮らしを支える公共測量~

代表者：横澤直人 (東京大学 生産技術研究所)

応募部門：データ部門

1. データの公開リンク先

データは以下のウェブページ上で公開しています.

URL : https://github.com/sekilab/UDC2017_PublicSurveying

2. データの概要

データの詳細については同ページの”README.md”に記してあります.

3. データの応用例

「公共測量の記録」には、次のような活用が期待されます.

3-1. 日本の地図データ総量の推計

最近では、地図データ(より広く言えば地理空間情報)はインフラストラクチャーとして位置付けられています. 地図データを整備するのが測量ですので、本データを測量事業単価などと組み合わせることで日本にある地図データの総量を推定し、地理空間情報というインフラの投資額を算出することが可能になると期待されます.

3-2. データで見る日本の測量技術の変遷

地図や測量の歴史については、これまで一般向けから専門まで幅広く書籍が発行されてきましたが、いずれも計測技術の進展や最新の地図作成方法について述べるだけであり、実際に現場でどの程度そうした技術が浸透していったのか、そもそもこういった「歴史書」の記載は正しいのか、釈然としないものがあります. これに対して、50年以上の記録を持つ「公共測量の記録」は「測量の統計」とも言い得る資料であり、データに測量の歴史を語らせることが出来ると期待されます.

4. おわりに

今回電子化して公開した「公共測量の記録」は、元々研究用途で作成したものであり、まだまだその利用可能性が大きく残されていると考えられます. 測量と言えば町でカメラみたいなものを覗いているとか、技術者ではなく労務者の仕事だとか言われていることが多いですが、私たちの暮らしを支えるあらゆる構造物を建設する基礎を担っているのが測量です. 今後、測量に関する基礎的なデータが充実していくことで、測量に関する認知向上とともに、一人でも多くの人に、“暮らしを支える”測量を知ってもらえればと思います.